

第 4 回 京都市西陣を中心とした地域活性化ビジョン検討委員会 議事録

《日時》

平成 30 年 9 月 19 日（水）午後 6 時～午後 8 時

《場所》

京都市考古資料館 3 階 貴賓室

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1. 開 会

— 省略 —

2. 議 題

(1) 西陣を中心とした地域活性化ビジョン（素案）

◆高田委員長

今日は、第 3 回検討委員会で皆様方から頂いた意見をもとに、事務局で活性化ビジョンの全体の案を作っていたので、細かい文言も含めて、皆様方の思いがきちんと反映されているかどうか、様々な視点から御審議いただきたい。

【資料説明】— 省略 —

◆高田委員長

説明があったように、第 1 章は「はじめに」で、第 2 章がポテンシャルと課題について、いくつかの 카테고リーに分けてまとめている。そして、第 3 章は、将来像に関して、前回、「Re 西陣」というのが委員会の中では評判がよくなかったため、「温故創新・西陣」でどうかという再提案があった。第 4 章から具体的な方策で、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと、4 つの 카테고リーに分かれており、そして最後に第 5 章があるという構造である。

最初に 1 章から 3 章まで、「温故創新・西陣」のところまでを範囲として、質問も含め、まとめ方、あるいはその内容・文言について、御意見をいただきたい。

◆新川委員

前回の議論を踏まえて丁寧に作っていただいたと思っている。全体的に見ると、2 ページの「ビジョン策定の考え方」で、「自分ごと」「みんなごと」とうたっており、30 ページの「実現にむけて」では、いろんな人たちが協力してこのビジョンを実現していくという趣旨のことが書かれている。ただ、3～4 章あたりには、こういう市民の姿や、地域で活動される方々の姿などが意外になくて、働きかけの対象にはなっているが、主体がちょっと見えにくいと感じた。

特に気にかかったのは、具体的な事例がいろいろと取組例として出されている 4 章の方策で、

担い手の話がもう少し出てきてもいい。あるいは主体的に市民が関わっていくところがあるのかと、読みながら感じた。それが1点目。

2点目に、その問題とも関連するが、生活文化の継承やイベントなどが出てくるものの、これも今の「自分ごと」ということからすると、生活者視点みたいなものが少し欠けてしまっているかなという印象がある。このあたりはまた議論できればと思う。

それから、少し大きな議論になって恐縮だが、全体像を見ていて、西陣の活性化を考えていくときに、幅広くいろいろな分野で考えていく必要があると改めて思った。これに似たようなものでふと思いついたのが、今京都市でも取り組まれているいわゆるSDGsの議論である。持続可能な発展のための17のゴールがあるが、これが出てくるかなと思いつつ見ていた。若干抜けているのが環境とか、あるいは生活に関わる水や土、緑、そういうところがもう少しあってもいいかと思う。

つまり、この地域には、御所から神社仏閣を含めて緑が豊かで、それから生業ということで言えば、今は残念ながら水道になっているが、伝統的にはやはり井戸や水路が利用されていた。そういったところがこの西陣の基盤として、あるいは魅力としてもっと出てきてよいかと思う。とりあえず問題提起をさせていただく。

◆高田委員長

大変重要な指摘をいただいたと思う。具体的にもし加筆修正するならば、最初の話では例えば第1章の書きぶりや、第2章の「ひと」の書き方を濃くしようということか。あとの環境や自然はそもそも十分書き込まれていない、足りないのではないか、という指摘か。

◆新川委員

はい。

◆高田委員長

空間的な問題については、「歴史・文化」や「町並み・交通」を広げて記載することはできると思うが、今までの議論の中でそういうところがあまり出てこなかった。それをどうするか、方向を決めたいと思う。「町並み・交通」に自然環境を加えるのも一つかもしれない。

これまで、「ひと」と「町並み・交通」をセットで議論してきたと思う。一つは生活の問題で、それに対して産業・商業・賑わいの経済活動の問題を別に考えて、生活と経済活動というような議論として行ってきたので、空間的な議論が町並みや交通に特化していた。今は、少しそれらをばらして並んでいて、これはこれでよいと思うのだが、ばらしてみると、直接生活の舞台になっていない部分の話が気になる。自然環境でも生活に直接関わっている部分もあり、そうなるこの3番目の「町並み・交通」をちょっと広げないといけないという文脈で意見が出てきたのかなと思う。私も気になっており、新川委員がおっしゃったこと、環境の問題を「町並み・交通」に入れてはどうか。

10ページで、新しいビジネスの動きという文脈で写真があるが、その右上は岩元禄という建築家の設計した昔の電話局だ。大正10年にできた電話局で、非常に有名な文化財になっている。鉄筋コンクリートの建物だが、一番上の部分は実は木造であり、構造的にも非常に興味

深いし、それをリノベーションして使っているという建物である。

例えば、この考古資料館の建物も本野精吾が設計して大正の初めにできたものだ。歴史的な寺社もちろんあるが、実は近代建築の資源もこの地域にはたくさんあって、それから冷泉委員のお屋敷や同志社大学も含めて、各時代の建築の資源があり、非常に魅力的な空間だ。

自然環境だけではなくて、そういう施設なども含めて、地図上に落とせるようなものがたくさんある。どこかにそういうことも書き加えたいと思っている。今の新川委員の御提案に加えて、「町並み・交通」に入れるか、また、「歴史・文化」に入れてもいいと思う。

この電話局は、岩元禄の設計したものでは唯一現存するものである。非常に貴重なものがこの地域にはあるということも、西陣の様々な活動のバックアップにつながるのではないかと思った。

◆上林委員

今おっしゃったように、古い時代から近代までいろいろな時代の建物があるところで、非常に特徴のある地域ではないかと思っている。もう少し書いてもらえるとうれしい。

参考資料1の前の議事録の7ページに伊豆蔵委員の発言で、「今、言われていることは、我々の組合でも非常に大きな課題として考えている。一昨年頃からファミリーセールという名前の販売にも取り組んでいる」という文章がある。実は、着物を着ないといけないことになり、中学校 PTA の役をした仲間が西陣織関係の仕事をしているので尋ねると、ファミリーセールを紹介された。行ってみるとすごい賑わいで、普段、着物を買う場所がないということに気がついた。

同じような光景がその少し前にもあった。堀川中立売より少し西に行ったところにある聚楽会館で、着物の小物のセールがあり、それにも出かけたが、すごい賑わいだった。私が知らないのかもしれないが、西陣には呉服屋さんがほとんどない。セールをやるとどっと人が集まるというのは、まだまだ着物を着たり、着物を着てどこかに出かけたかといった欲求があるのではないか。その掘り起こしをすることが非常に大事ではないかと思っている。

伊豆蔵委員がおっしゃったファミリーセールの効果や、そういうことが求められているということを書いてもらえるとうれしい。

◆高田委員長

9ページから11ページの西陣織のところに、課題として書くこともできるし、ポテンシャルとして書くこともできると思う。

◆福岡委員

最近、我々メーカーが百貨店などに出向いて催事として販売することが非常に増えている。その中には残念ながら西陣とうたっているながら中国製のものもある。私は、本当は西陣織は西陣地域で織ったものであるべきだと思っている。うちでは一切外注には出さないのだが、現在、会社を改装していて、実際に織っている製造現場を見てもらいながら、本物を味わってもらうことを計画している。

最近、物が有り余っている時代であり、あまり人が持っていないものを求められる。そこ

で、例えばうちの場合は、自分の好みの色を帯のどこか一部に入れて、それを自分で染める体験をして、それで実際に織っているところを見てもらおうと考えている。そうすることで、自分が何らかの形で携わったという特別感などを得られると思っている。

最近、製造が丹後から西陣に少しずつ戻ってきているとも聞く。これを機にそういう取組をして、西陣にも外からどんどん人が来るような環境づくりをしていければと思っている。

◆高田委員長

今のお話は、物を作って広く売るというよりも、この空間の中で作り手と使い手をつなぐということなのか。

◆福岡委員

そうだ。普通の業界はメーカーがあつて問屋があつて小売店があるが、われわれの業界では問屋がいくつも入る。例えば西陣の産地問屋が入って、室町の問屋が入って、地方も問屋が入る。そのような中で、びっくりするような値段で小売店に並んでいる。また、1人のお客さんに対し多くの店員がついて買わせようとする。そうになると、欲しくても怖くて買いにくくなる。

私は、ちゃんとした形で販売していかないといけないと思っている。我々が実際に小売りとまではいかないが、オンリーワンの商品を提供できるような環境を作っていく必要があると思っている。

◆鳴橋委員

先ほどのファミリーセールについては、西陣の呉服屋さんがそれぞれで、顧客に安い値段で売られていると思うが、それを外の方はまったく知らない。先ほど、びっくりするような値段と言われたが、10倍ぐらいになるとも私は聞いている。逆に、あるところでは、それこそびっくりするような安い値段で買えることを知った。

◆福岡委員

われわれもいろんな問屋さんとお付き合いしているが、問屋のルートによってまったく同じ商品で数十万円の差が出ることもある。普通の商品では、あり得ない話だと思う。

◆上林委員

それから、西陣の着尺が結構いいということを発見して嬉しかった。よその産地の着物で帯だけ西陣という話が多いが、そうではなくて西陣でちゃんと揃うということが分かってよかった。

◆赤星委員

今までの委員会の多種多様な見地からの意見を、しっかりとまとめられている。

私の専門が集客・交流・ビジネス・観光なので、特に申し上げたいのは25ページの「「ほんもの」に触れる観光の推進」という部分。取組例の②は先ほどの議論の「西陣織の産地である西陣で着物を購入できる機会づくり」ということだが、逆に私はこの部分が引っかかっている。

まずどこで買えるのかの問題もあるし、西陣で買う必要が本当にあるのか。もう少しターゲットを明確にした方がいいと思う。

というのは、外部から来る観光客は、日本人もいれば海外の方もいる。着物、和装に関してモチベーションが高い方々は、西陣で暮らすように旅をするので、もしかすると高い着物を買う可能性もある。しかし、例えば24ページの下にある「周囲の観光スポット等からの来訪者の呼び込み」ということになると、ライトユーザーというか、例えば和装にまったく関心のない方々がここに来たときに、おそらくいきなりは買わない。いきなり西陣に来て西陣で買ってもらうのが理想だが、もう少しエントリーユーザー向けに、この地で時間を過ごすことにより、和装に関心が高まるような仕組みなどを考えた方が良いのかなと思った。

◆高田委員長

とりあえず今は3章までの議論で、4章については後ほど改めて議論できればと思う。

私が気になっているのは、冷泉委員が前におっしゃった元気な高齢者のまちをつくるということだ。現に高齢者がたくさんおられて、ネガティブな意味合いももちろんあるとは思いますが、ポテンシャルとして評価できる部分があると書いておかないと、方策でアクティブなシニア層の話を書いたときに、どこを受けた提案か分からないと思う。「ひと」のポテンシャルに加えていただくと良いと思う。

◆冷泉委員

私が言いたいことを代わりに言っていた。とにかく年いった人が多い。それをあまり否定的に見ると将来につながらない。そうではなくて、ここには熟練の文化に精通した大人の年いった人が多くいて、その人たちのエネルギーみたいなものを吸収して、発展させていくまちをつくっていかないといけないと本当に思う。とにかく多いことは間違いない事実なので。

◆高田委員長

それをポジティブに捉えて、ポテンシャルとして認識するということをぜひ書いていただきたい。

◆タナカ委員

全体的にうまくまとまっており、とても良いと思っている。「50年先の将来像を描き」とあるので、50年後に実際の人口がどうなっているのかなど、現状や課題の部分に入れてもいいのかなと思う。京町家の軒数もこの数年で減っている。今後どのように減るのかや、50年後こうなるからこう変えていくというような話が、ビジョンの中にあってもいいと感じている。

コンセプトについて、「Re 西陣」よりは良くなったという言い方もあれだが、「温故知新」の造語として「温故創新」ということで、新しいことを作っていくことに関してすごくいいなと思っている。今後、地域もどんどん変わっていかないといけないと思うし、いろんなものが創新されていくような感じで、文化創新や地域創新、商業創新などがあると思う。あと、「温故創新・西陣」となっているが、「西陣」をつける必要があるのかとは思っている。4文字熟語だけでコンセプトとして大きく打ち出してもいいのかなと感じている。「西陣」がつくと、過去のポ

テンシヤルがある中で、そのイメージに落ち着いてしまうかもしれない。どちらかという「西陣」は付けずに打ち出す方がいいのかなと感じた。

◆高田委員長

何かこれに関連するご意見があれば。あるいは事務局の思いはどうか。

◆事務局（平井部長）

必ずしも「西陣」をつけようということではないが、西陣の活性化ビジョンのコンセプトなので、「西陣」という名称を入れた方がいいかなと考えて付けている。「温故創新・西陣」と続けると、音や響きがいいかなとも思っている。

◆上林委員

先ほどおっしゃった50年先という話について、50年先は何も明らかになっておらず、今から50年先なんてとても恐ろしくて書けない。それはもう遠い将来がこうなるかなという程度にしておいてはどうか。この間の議論は、10年間という短期の話が多いので、先ほどのような質問が出た時に答えに困るかもしれない。50年先という言い方を、この際下ろしても良いかもしれない。

◆新川委員

一つはポテンシヤルの書き方について、今ある資源をしっかりと書き込んでいるが、潜在的な資源として、先ほどの建物や、あるいは生活習慣にしても、発見できていない資源が山ほどあるのではないかと、とても気にかかっている。ポテンシヤルは西陣ではまだまだ発見、あるいは再発見しないといけないのではないか。

もう一つは、今こうやって目につく資源をどんどん使っていきましょうというのは、これはこれでいいが、一方で、資源について大事なものは、上手に使うというか、すり減らないように使うというか、あるいはもっと豊かにするように使うというか、そういう賢い使い方みたいなものが全体のトーンにないと、将来につながっていかない。このポテンシヤルの書き方自体が、こんなものもある、あんなものもあるだけで、これを使おう、あれを使おうというイメージが強くなっている。その書きぶりはちょっと変えた方がいいかなと思いながら読んでいた。

「温故創新・西陣」については、タナカ委員がおっしゃることもよく分かるが、西陣がこれからやるぞというのは「温故創新・西陣」でいいかなという感じが個人的にはする。50年後は想像もつかないが、でも50年後を考えて今やっているんだぞという、これも言ってみれば心構え、身構えみたいなどころがあるのかなと思っている。

◆高田委員長

他に御意見なければ、4章に進む。できるだけ制度の議論や提案の形で御意見をいただきたい。まず、「歴史・文化を継承する」という柱についていかがか。

◆鳴橋委員

最初の推進項目について、「文化庁とも連携した暮らしの文化の普及・啓発」や、方策②にも関係あるが、見ているとお茶やお花、着物のことしか書いてないような気がした。「年中行事や食文化等を起点にしなごら」とあるので、年中行事にお祭りや地蔵盆など、和の文化だけでも生活文化や地域文化に関する文言が入っているといいと思った。年中行事の方は、下の取組例を見てもあまり書いていないような気がする。お茶などは次の方策②にも書いてあるが、お祭りや地蔵盆は、例えば氏子制度や、町内会、地域力、コミュニティ形成にも必要なもの、大切なものだ。それも暮らしの文化の一つだと思っているので、そういう言葉も入ればいいと思う。

◆高田委員長

お祭りの記載がどこかになかったか。

◆鳴橋委員

16ページにはあるが、途絶えてしまったお祭りとなっているので、今あるお祭りのことも含めて入れていただきたい。

◆高田委員長

2つ目の柱の「趣のある町並みに住む」というところについて御意見はいかがか。

◆冷泉委員

先ほどから出ている議論で、西陣はものを作るまちだが、外観からは分からないのが、このまちの一つの課題だと思う。流通の問題もいろいろあるが、例えば、帯を織っているなら、その帯の2本ぐらいでも、組紐を作っておられたらほんの3本でも、各家がショーウィンドウ的に、こういうものを作っているということを見せられるとよい。それで販売すると言うと言い過ぎになるかもしれないが、私は買いたい人がいたら買えるとよいと思う。問屋さんや、製品でなく素材を作るところも多いと思うが、少しだけでいいからこんなものを作っている、扱っているということ、高級ブティック的というか、ショーウィンドウ的に見せることはできないか。そうすると、この町並み自体もまた変わってくる。

観光客が歩いていても、まちに古い民家があることは分かっても、そこで何をしているのかは分からない。ここは本当にものづくりのまちであり、少しだけでいいからそういう努力をすることにも必要だと思う。

◆高田委員長

今のショーウィンドウ化というアイデアは、3本目の柱のところに書いた方がなじみやすいかもしれない。ものづくりか、町並みの箇所かで、この観点を加えていただきたい。

◆福岡委員

うちに来るお客さんは関東など他府県の方が結構多い。新幹線で京都駅に着き、JRで二条駅

まで来て、そこから歩いてくる方もいる。そのときに、例えば千本商店街でそういうショーウィンドウ的なものができると、千本通は上り坂で結構しんどい中にも楽しみがあつていいのではないかと思う。

◆高田委員長

今の御意見は、見方によっては3番目の柱の話のようにも思う。

◆事務局（平井部長）

柱Ⅱ方策④の推進項目、「楽しみながら歩くことができる環境の整備」という項目に入れても面白いのではないか。

◆高田委員長

柱Ⅱは、道のつくり方など、どちらかという交通の話を想定して書かれているのではないか。

◆事務局（平井部長）

そこで「沿道が楽しい」という言い方をすると良いのではないか。柱間での施策の融合という観点からも良いかもしれないと思った。

◆高田委員長

今の御意見は、先ほどの冷泉委員の話の延長として、千本通がショーウィンドウ化しないかという、歩いて楽しい通りとしての提案として、非常に魅力的な提案だと思う。

次の3番目の柱に進みます。赤星委員、先ほどおっしゃっていた意見を御発言ください。

◆赤星委員

観光について、「西陣で着物を購入できる機会」となると、エントリーユーザーの方々にはハードルが高いのではないかなと思う。西陣へ観光に来た方が着物の文化に触れる機会づくりなど、2段階に分けてみてはどうか。観光客は、物事を全て解決してくれる万能な方ではなく、物見遊山で来る方もいる中で、ここは2つに分けて考えた方がいいのかなと思う。

それから、まだ知られていない魅力を発信するところでは、この西陣エリアには私も存じ上げない素晴らしいものがたくさんあると思う。そういったコンテンツを集積し、観光につなげていくという取組も書いた方がいいと思う。

◆福間委員

よくできている素案だと思う。

「温故創新・西陣」は、新川委員と同じで「西陣」を入れた方がいいと思う。西陣プロジェクトなので、一押しということ。

それから、50年先については、先ほども御発言があつたが、ある意味では心構えということで、50年でも100年でもいいと思う。

トータル的に必要なのは、文化の継承ということであり、それがなければ、全てのカテゴリーが成立しないのではないかとさえ思っている。

冷泉委員がおっしゃられるように、帯屋さんが、家の前に2本くらい帯を並べてみるのも良いと思う。以前、ふくさ屋さんか分からないが、丸の中に四角だけ書いてあって、「ここは何屋さんでしょう」というようなことがあった。これはこれで1つの勝負だと思った。

また前回、素晴らしい財布の話題が出ていて、これをヨーロッパにという話もあった。今回はビジョンに出てくるタイトルどおり、「ほんもの」というか、基本というか、そういうところに立ち返ったお話を頂いたので、非常にいいなと思っている。

千本通の話は千本の商店街にも試してみる。

最後に、先ほど話が出ていた、例えば西陣でないと買えないというのは、私も反対である。例えばベネチアグラスを買いたい時にベネチアでないと買えないのかという話だ。ヨーロッパへ行ったときに、どうしても手にしたい方や、コレクションしている人たちにとっては、工房を見たいだろうと思う。工房でつくっているところも見るができるし、またお話を聞きながら、この作品をくださいということにもつながる。まずは広く認知していただいて、それがだんだん「ほんもの」に近づいていく、コアなファンになっていくという、そういう両面が大事なのかなと思っている。

◆平岡委員

このような資料にまとめていただきありがたい。

先ほど、千本通の賑わいなどを柱Ⅱに入れてみても面白いのではないかと話があった。委員長がおっしゃったように、方策④は交通についての内容だと認識している。どちらかというところ、冷泉委員や福岡委員がおっしゃった内容は方策⑤の内容として「産地・つくり手と消費者とのつながり強化」などに入れる方が、より方策ごとの内容の独立性が図られるのではないかと考える。

◆吉田委員

方策⑥の「クリエイティブなものづくり産業の創出」が地域として期待されているところだと思う。ただ、他の地域でも言えることが推進項目のイメージになっているので、もう少し西陣らしさがあったらいいと思う。

今まで委員の方々の御意見をお伺いしていると、ものづくりのまちというだけでなく、御所を中心とした極めて質の高いものづくりを志向するまちだということが特徴として理解できる。人によっては、京都でベンチャーが生まれる理由も、見る目の厳しさというか、そこで鍛えられるところがあるという人もいます。それも1つのものづくりの文化だと思うし、そういった要素や、そういったことを担う人材がいるまちなので、ものづくりの技術そのものよりも、そういった要素を継承するようなまちである、ということを入れていただければと思う。

◆高田委員長

方策は、固有名詞で記載すると分かりやすいが、特定のところだけを記載するとそれはそれで問題がある。ただ、どこかをイメージして書くことは大事と思う。

一番最初に新川委員の御発言があったように、全体として、ビジョンを自分ごと、みんなごととして、要するに地域が主体となって活動する、ビジョンを実現するというスタンスが出ていることは大事だと思う。委員の皆さんの中にも、ビジョンを実現するときに中心になっていただけの方がいると思うので、そういう方の発言の想いが伝わるようにビジョンが書かれていることが、イメージを高めることにつながるかなと、今、何人かの方の意見を聞いていて思った。

それでは、次は4つ目の土台のところと第5章も含めて、御意見を頂きたい。

◆吉田委員

先ほど新川委員がおっしゃったように、この地域にはまだ掘り起こされていない潜在的な資源がとてまたくさんあり、ここでもかなり議論を尽くしても、まだあるだろうという感じは確かにある。

そこで、ビジョンにも書いてあるが、埋もれている歴史や文化の物語、知られていない物語がたくさんあるという課題や、それを掘り起こす具体的な方策が必要であると思っている。そういった物語がうまく言語化されていない中で、大学関係者としてやるべき部分かなと思っている。

方策⑩の「活性化の新たな担い手」に入らないかもしれないが、大学の研究者は、基本的には様々なことを調べて言語化するというのが仕事であり、学び交流するプロジェクトの一環として、そういった文化の掘り起こしや、それを言語化して残すことが、大学がエリアに多く存在する地域として必要かなと思った。

◆高田委員長

今の提案は大学との連携を、取組例の中に入れるということによろしいか。

◆吉田委員

「歴史・文化を継承する」を3つの柱の真ん中に据えていることが、すごく特徴的なビジョンかなと思っているので、方策①の歴史の掘り起こし、再認識のところに近いのかなと思う。大学との連携でそれができればいいなと感じた。

◆新川委員

おっしゃるとおりと思いながら聞いていた。

特に暮らし・文化と言ったときに、消費するだけでは結局は伝承もできないし、深まらないし、未来につながっていかないと思っている。そういう点では、今ある文化をどうするかという話は施策としてやればいいが、その手前の土台のところをしっかりと地域の中で再発見したり、吉田委員がおっしゃったように言語化したり、そのことが持っている価値をきちんと再構築するような、そういう土台づくりがこの西陣にしっかりあるといいなと思いながら、お話を聞いていた。

今日、考古資料館で委員会をやっているという意味も、非常に大きいと改めて思っている。土台の内容が、担い手やブランド化、公有地活用など、個別的な項目にやや入り過ぎていると

ころもあるので、もう少し土台らしい書き方をしたらどうかと思う。

担い手創出では、学びや新しい担い手が出てくるが、言ってみれば西陣の知識、知恵、技術を育むような場づくりが必要だ。ブランドも、単に「西陣ブランド」など、商品タグに付いているようなものではなく、西陣の価値、むしろ西陣というだけできちんと理解できるようなもの、それはいったい何かということをつくっていこうという土台があるとか。公有地といえば、学校施設などの話だけではなくて、高田委員長が最初におっしゃったように、公共的な空間としての意味、それから私的な空間としての意味、それをもう一度、西陣の町の中で再確認し、そして、その理解を深めて、それを上手に使っていこうというイメージの方が土台らしいかなと思う。

◆高田委員長

もう少し全体の構想、全体のインフラとして、土台がこうあるべきだという書きぶりをする。最初に土台の説明が必要で、あとはそれを踏まえて各方策の説明の文章を少し書き加えていただく。

それから、先ほど御提案いただいた大学との連携については、全国的に地域と大学が関わって、いろいろな新しい取組が行われていて、今、私もある雑誌の特集の関わりで調べている。

特定の先生が頑張っているプロジェクトと、大学が積極的にお金も出して、大学全体として地域に関わろうとしているものの2種類があり、大学に関わるというのはそれなりに意味があって、大学の経営の中で地域貢献の位置付けがしっかりできている。

一方で、特定の先生がやっていることを宣伝だけに使っている大学もたくさんあるが、その先生が他の大学に行ってしまうと、その活動はなくなってしまふ。そういう研究活動自体は別にあってもいいと思うが、大学と地域との関係は少なくともそうではないと思う。

同志社大学も含めて、そういう土台づくりに大学が貢献するということは、非常に意味があることではないかと思う。その効果は、新川委員が言われたようなことを実現するうえでも、役に立っていくと思う。そのあたりを考えながら、土台のところを検討していただきたい。

◆鳴橋委員

活性化の土台のところ、取組例に「エリアに居住する若者等による、SNS等を通じた西陣の魅力発信」とあるが、若者が西陣の魅力を発見するところがなかなか難しいと思うので、「まずは熟練の人と若者をつなぐ」という言葉がどこかにあるといいと思った。上に「つながり」と書いてあるが、「熟練」とか「年配の方」という言葉がないので、それを入れて、若者とつながっているという感じを出せたらいいのではないかと思う。

前に戻るが、柱Ⅰの「歴史・文化を継承する」の取組例の「伝統的な五節句等の由来や内容等を啓発する講演会等の開催」で、開催する場所を入れておいた方が具体的で良いのではないか。以前、冷泉委員が門跡寺院でできないかとおっしゃっていたように思う。書いておけば、取り組むときにやりやすいのではないかと思った。

もう一つは、柱Ⅲの「西陣で働き、賑わいを生む」の取組例で「着物で出掛けて写真を撮りたくなるスポットの演出」とある。例えば、西陣織会館でインスタ映えするような場所がないという投稿を見たことがある。金襴などの生地をバックに写真を撮ることができれば、いかに

も西陣という感じがするし、それを発信してもらえればいいかなと思う。

◆高田委員長

そういう趣旨を加えるとしたら、観光のところか。

◆鳴橋委員

観光でもよいが、方策⑤に「写真を撮りたくなるスポットの演出」とあるので、そこに例として入れたらどうかと思う。

◆平岡委員

柱Ⅳの方策⑩で、学生と書かれているのは、たぶん大学生が主だと思う。大学生はすでに自分の専攻を選んで所属している者がほとんどだと思う。私は法学部なので法律を学んでいるし、理工学部の学生は理系分野を学んでいる。例えば新川委員の下で学んでいる学生なら、政策について自分の中で将来像を描いて学んでいる方が多いと思う。政策学部であれば、このような地域活動に積極的に取り組む学生も多いが、私の周りの法律を学んでいる者は、地域活動に積極的に関わる学生はそれほど多くない。学部単位で学生の認識もたぶん異なってくるのではないかと考えている。

そこで、「担い手の創出」というときに、大学生を対象にするのではなくて、高校生や中学生など、自分の将来を考えている途中の学生もターゲット層として捉えられたらいいのかなと思っている。

また、大学生でもいろいろな専攻があるので、大学の専攻も少し視野に入れてはどうか。学んでいる分野に特化して、法学部生であれば法律的な思考を生かした何かができると思うし、理系であれば、その内容を活かした地域活性の方法もあると思う。これは土台の中に入れる必要はないと思うが、いろいろな学生がいることを踏まえると、すてきなビジョンになるのではないかと考えた。

◆高田委員長

全体の趣旨でいうと学生は若い人ということで書かれている。今の御発言は専攻があるという趣旨で、いろいろな方向を向いている若い人をうまく取り込んでいくという趣旨だと思う。

◆赤星委員

先ほど来、50年先、100年先というお話があったが、1つだけ間違いなく言えることは、50年後、100年後というのは今よりもっとICT化が進んでいく、デジタル化が進んでいくということ。これは誰が何と言おうと絶対に避けられないことだろうと思う。

もちろん少子高齢化もあると思うし、デジタルを是非入れるべきだと言うつもりはないが、今後、いろいろな起業家やクリエイティブクラスの方々をこの町に集積しようとするならば、どこかでそういう効率性やIT、デジタルという文言を将来に向けてビジョンに入れられると良い。「いや、この町にはそんなものは必要ない」ということであれば結構だが、少し具体的に戦略として、こういったクリエイティブクラスや起業家の方々を集めるときに、この町全体のデ

デジタルリテラシーのようなものを上げていく取組は必要なのではないか。

方策④に「シェアサイクル」や「パーソナルモビリティなどの新たな交通手段」とあるが、例えば、交通の効率化を図っていくデジタルの導入や調査をしていく先進的な事例、あるいは先進的なモビリティを投入する実証実験が行われるなど、先進性みたいなどころもあった方がいいのではないか。これは今まで議論に出なかったことなので、賛否両論あるかと思うが、意見として述べさせていただく。

◆高田委員長

記述にあるパーソナルモビリティは、まさにそういうこととリンクしている話であり、また、シェアサイクルをこの地域の中で普及させていくにも、そのような仕組みがないとできない。

また、外国に行くと、その地域の説明が各国語でスマートフォンなどで配信されていることがよくある。西陣のあちこちでそういうスポットがあれば、観光客にとって非常に魅力的なことだと思う。

◆新川委員

赤星委員から指摘のあったことは大変大事だと思った。

技術革新ということでは、それこそ福岡委員が、ずっと率先してやってこられたことかなと思う。そういう要素が、今回の全体のコンセプトの中でとても大事だということでも繰り返し出てきていたと思う。

ただ、赤星委員が発言されたように、AIや、あるいは情報通信技術、そして、それがもたらす副次的な効果、そういうところをもっと活用するということは大いにあり得るかなと、改めて思いながら聞いていた。むしろ「西陣ブランド」をつくっていく土台のところにも「新たな情報社会5.0の技術」などと、記載していくような話はあっても良いかと思う。

ただ、それぞれの柱の中で具体的にAIやIoTをどこまで入れられるかというのは、もう一度検討してみないと分からない。部分的に関係がありそうなのは、交通、観光、場合によっては商業や、文化継承という点ではデジタルアーカイブという話もあるし、教育、学びもあるかもしれない。そのあたりでの活用は考えてもいいのではないかと思いながら聞いていた。

◆福岡委員

先ほど、インスタ映えという発言があった。また、中国、韓国に行くと、屋台でものを買ってもピッとやって、現金を持たなくてよい状態になっていて、日本もそれをしないといけないという話もある。

ただ、文言を入れることは、デリケートに考えないといけないと思う。今回の活性化ビジョンにある50年、100年先という時に、ある意味「本丸」的な西陣を見直そうとか、どちらかという伝統文化で、いいものを掘り起こすなど、そういう方向性で議論が進んでいる中で、そういった言葉を単にそのままビジョンに入れてしまうのではなく、別に、京都市の戦略プロジェクトなどを立ち上げて、専門的に議論される方がいいのかなという気がする。

当然、視野に入れなければならないことはよく分かるが、文言の入れ方については、少し神経質に考えた方がうまくまとまるのではないかと思う。

◆鳴橋委員

19ページの柱Ⅱの「趣のある町並みに住む」の最後に、「路地の安全性の向上及び良好な住環境の確保」の推進項目があるが、文章の中に「良好な住環境の確保」の部分がないように感じる。どこかに「地域で快適に暮らす」といった言葉を入れて、その後『防災まちづくり』に取り組むとともに、良好な住環境の確保に対応する」のような言葉があればいいのかなと思う。

50年先のビジョンに対して、この30年以内に大地震が起こるという話もあるので、災害についても、もう少し何か具体的な記載があってもいいかなと思う。

◆上林委員

参考資料1の前回議事録の15ページに、福岡委員が西陣織に関して苦勞して開発された製品等の発言をされているが、そういう苦勞を少し暗示するような、努力されていることに触れられないか。つまり帯や着尺だけではなくて、新しい素材を対象にしながら、悪戦苦闘されていることもどこかに入っているといいと思う。

◆高田委員長

どこかに、記述できるよう願います。

ものづくりということで、先ほど冷泉委員から、つくったものが町中で見えると良いという発言があったが、それはそのとおりでと思う。作り手にフォーカスを当てるような事柄がもう少しあったらいいと思う。

新たなものづくりをやるということももちろん良いと思うが、すでにある作り手にフォーカスを当てるようなこと、例えば表彰制度やイベントなのかもしれない。探せばすでにあちこちでやっているかもしれないが、それを西陣でやることで、西陣の中だけの話ではなくて、もっと京都全体の文脈の中で、あるいは日本全体の文脈の中で、西陣のものづくりをアピールすることができるのかなという気がする。

それでは、本日の議論のまとめになるが、非常にポジティブな意見をたくさん頂いた。全体の枠組みは、今の枠組みで大体いいだろうということだと思う。それぞれの書きぶりについてはもっと深い想いがきちんと伝わるように、全体としてはポイントを押さえて書く、ということと、あとはもう少しデリケートな感性を持って、いろいろ書き加えることが必要だということをお伺いした。特にこの3本柱に土台、11の方策という構造自体はこれで分かりやすいという意見をいただいた。

それから「温故創新・西陣」について、どのように表現するかというデザイン上の話や、あるいはどこでこういうキャッチフレーズを出すのかという問題はあると思う。そういう意味ではもう少し具体的な活動との関係の中で「温故創新」という言葉をどう使うのかということも含めて、検討していただけたらと思う。

大きな反対はなかったと思うので、これで何とかまとまるように思う。今、頂いた意見を盛り込んで、素案をブラッシュアップしていくということをお願いしたい。

(2) 今後の進め方

◆高田委員長

次の議題，(2)の「今後の進め方」に進みたい。事務局から説明をお願いします。

【資料説明】— 省略 —

◆高田委員長

本日の意見をもとにして，もう一度，このビジョンをブラッシュアップしたものを，パブリックコメントにかけるといふことで，西陣の方だけでなく，京都市全体の皆さんから意見をいただいて，その上で今年の終わりぐらいに第5回検討委員会を開いて，最終的にはとりまとめを行うというスケジュールである。

何かパブリックコメントのやり方や，次回の委員会の開き方について，御提案などがあれば，お願いしたい。

◆新川委員

パブリックコメントに掛けられる案は，事前に各委員が確認できるのか。それとも，委員長が代表して確認される形になるのか。

◆事務局

この後，ビジョン案を修正して，パブリックコメントの前に，委員の皆様は事前に見ていただき，御意見を伺いたい。

◆高田委員長

ビジョン全体と合わせて，概要版を作るということなので，それも一緒に送っていただく。事前に皆さんに確認いただいたうえで，パブリックコメントの意見を募集することになる。

議論がだんだん収束していくと思うが，まとまってくることでより具体的な発想がわいてくることもある。最終的に今年中にまとめればよいということなので，まだ手直しできる状態だと思うので，あまりまとめる方向ばかりを考えないで，検討を進めていけたらと思う。

それでは，本日の議題は以上である。

3 閉 会

以 上

第4回京都市西陣を中心とした地域活性化ビジョン検討委員会 出席者名簿

氏名	所属
あかほし しゅうへい 赤星 周平	(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー 国際観光コンベンション部長 (公社) 京都市観光協会 事務局次長兼国際誘客推進部長
かんばやし けんじ 上林 研二	上京区社会福祉協議会 会長 中立住民福祉協議会 会長
たかだ みつお 高田 光雄	京都美術工芸大学工芸学部 教授
タナカ ユウヤ	(株) ツナグム 取締役
なるはし あけみ 鳴橋 明美	市民公募委員
にいかわ たつろう 新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授
ひらおか みずき 平岡 瑞貴	同志社大学大学院法学研究科博士課程 (前期課程)
ふくおか ひろのり 福岡 裕典	(有) フクオカ機業 代表取締役
ふくま てるよし 福岡 輝芳	京都商店連盟上京支部 支部長
よしだ まり 吉田 満梨	立命館大学経営学部 准教授
れいぜい きみこ 冷泉 貴実子	上京区文化振興会 会長

(五十音順, 敬称略)